

令和6年4月16日(火)
9:10～10:40
川越町役場2階 大会議室

令和6年度 川越町総合教育会議議事録

●会議参加者

城田町長 寺本教育長職務代理(T) 寺本委員(K) 後藤委員(G) 早川委員(H)
稲垣教育長 (事務局:学校教育課 課長・主監・課長補佐、生涯学習課 課長)
川越北小校長 川越南小校長 川越中学校校長

1. 開会

2. 町長あいさつ

例年、4月にこの総合教育会議に出させていただき、先生たちの思いをしっかりと聞かせていただいている。また教職員の皆さんが、日頃、子どもたちに配慮をしていただいて、みんなの力で安心できる学校を作っていただいていることを、ひしひしと感じている。

本日も、教育委員の皆さんから熱心な質問をいただき、それぞれが思いを出し合う場となっていくことを期待する。

子どもたちの「豊かな心」を育てていくために、学校、家庭、行政、地域が一体となり、将来に向けて大切な時期を、学校の先生方に見守ってもらっていると感じている。そんな子どもたちが、様々なことにチャレンジしていけるように、今後も取り組んでまいりたい、

本日は、日頃感じている思いを出し合いながら、これからの学校の実践に生かしていってもらえればと思う。

3. 協議事項

(1) 各校の「学校づくりビジョン等」について (各校長より)

<川越南小学校>

新年度4月に入って、子どもたち一人ひとりに成長が見られる。高学年の児童が1、2年生のお世話をしたりしている。スタートとしては良い入り方ができたのではないかな。小さなうちから、リーダーとしての意識を育てていきたい。担任に対しては、子どもたちの良い姿をたくさん褒めるように伝え、管理職にも報告をしてほしいと伝えている。こういった良い姿を保護者の皆さんにも伝えていこうと思っている。職員も良いスタートが切れたのではないかなと思っている。

学校づくりビジョンについては、川越町の教育基本方針と同じように「豊かな心の育成」と変更をした。これまでは、「確かな学力の向上」が重要課題として中心に据えていたが、今年度は「心の教育の推進」を中心に据えて、この土台を基に「確かな学力」などにつなげていきたい。学力状況調査は全国平均を上回っているが、子どもたちが安心してクラスの中で過ごしていけるように、「心の教育の推進」を土台としていきたい。

また今年度は、非認知能力の育成を中心に研究を進めていきたい。また「確かな学力の定着」においても同様で、「一人も取り残さない仲間作り」も大切にしていきたい。

発言する子だけで授業を進めていくのではなく、クラスのみんなが主役となる授業づくりを進めていきたい。

教職員には、学級経営にとどまらず学年経営という形で、ベテラン教員と若手教員が交じり合ってお互いに相談したり、聞き合ったりする体制をとってほしいと伝えた。

また全教職員で南小学校の子どもたちを見ていくために、毎日、放課後に打ち合わせをし、全員で子どもたちのことを共有することにした。

小学校には、子どもの実態に応じて担任判断を行う文化がある。ただ、子どもの実態に押し切られている教員もいることから、担任判断が全体のことを把握できていないこともあったので、全体を見て動いてほしいと伝えた。

<川越北小学校>

1 1 人の新しい先生が入り、子どもたちも先生たちも心機一転頑張っている。また気持ちよい挨拶もしてくれる。

職員には、「友だちと学ぶことが楽しい学校、誰もが安心して過ごすことができる学校、子どもたちにとって明日も来たくなるような学校を目指したい」と伝えた。

4 月、登校初日は天気も良くなかったが、たくさんの保護者と地域の方に子どもたちを見守っていただいた。安全面については、地域の方と一緒に考え、行動していきたいと考えている。

担任が、子どもたちのことをよく知っておくことが大切である。何か急に困ったことがあった際には、家庭と連携をとって、早急に対応を行うことができるようにしていきたい。

学校教育ビジョンでは、前校長から「職員みんなで作りあげる形にしたい」と聞いている。教職員が学校教育ビジョンを意識して行動している姿が伝わってきたし、大切にしているのがわかる。絵に描いた餅にならないように、確認をしながら取り組んでいきたい。

今後の学校の課題としては、「学力の定着」「特別な支援が必要な子どもへの対応」「不登校の子どもへの対応」である。同時に、「いじめを許さない学校づくり」も大切にしていきたい。子どもたちを取り残さない教育を進めていく。

今年度は、三重郡人権・同和教育研究大会が本校で開催される。当日の発表だけではなく、学校全体で人権・同和教育を見直し、実践を続けていこうと考えている。

またキャリア教育の一環として、保護者の方、地域の力を借りた学習を行っていきたい。地域の方がとても協力的で、子どもたちを見守ってもらっている。今後、一緒に学校を作り上げていきたい。

最後に、学校だよりを基にして、校長として気づいたことを保護者の皆さんに積極的に伝えていきたいと思っている。

<川越中学校>

昨年度末、三重県 PTA 連合会の中で、本校広報誌が中日新聞社賞を受賞した。PTA をスリム化して 2 年目、こういった立派な賞をもらうことができたのは PTA の皆さんのおかげだと思う。本当にありがたいと感じている。

今年度、子どもたちが主体となって校内の自治活動を大切にし、実践している。川越中学校は先輩の姿から学ぶ学校であり、生徒会や在校生から新入生に対して対面式を企画して話をする機会を設けている。様々な場面においてかかわることを大事にしており、上級生が入学生に対して大切なことを呼びかけている。集会においても、上級生が良い姿を見せることで、入学生が学ぶ姿となっている。

子どもたちはとても優しく、あたたかい子どもたちで、そんな良い姿や一生懸命に頑張っている姿をご家庭にもどんどん発信していきたい。

今年度の学校教育目標は、川越町が大切にしている「豊かな心」「非認知能力」とリンクさせていきたいと考え、子どもたちが自らの「生きる力」の向上につなげていくために、学校教育ビジョンに沿って、様々な経験や体験を基に取り組んでいきたい。

特に大切にしていきたい人権教育、多様性、一人ひとりの大切な命を大切にしていくために、学校だよりや学年通信、学級通信等において、学校での実践や教員の思いなどを伝えたり、子どもたちの言葉を紹介し、共有し、ともに考えることを大切にしている。「仲間づくり」を土台とした一人一人が大切にされる取り組みを進めていきたい。

また、自転車の乗り方などについても、警察や自動車学校と連携を行い、交通安全教室なども実施していこうと考えている。

先生たちも、新しく 13 名の方が入ってこられた。新しい仲間と一緒にしっかりと学校を作っていきたい。

【質疑応答】

司会：何か質問は。

- (T)：先生方は、学校教育ビジョンを柱に、本当に熱心に取り組まれている。各学校が様々な方法で保護者や地域に伝えてもらっていると思う。ときどき振り返りをしながらゆっくりと進めていってもらえればと思う。

「子どもは教師の鏡」とあったが、子どもたちは先生によって変わる、成長すると思う。現実には難しいところもあるが、先生たちを育ててほしい。地域や保護者から見ても「良い先生だな」と思える人を育ててほしいと思う。

南小：課題として、学年の中には、学校全体で決めたルールを学年の判断で変えてしまうことがある。他の学年からすると、なぜ決まっていることを変えるのかということになる。自分たちの学年だけでなく、全体の流れを見て判断していく必要があると思う。

(K)：全体的な整合性を保つためには、守るべきことを守る必要があると思う。

南小：小学校は担任の判断でやってしまうことが多い。小学校も教科担任制なども入り、多くの教員の目がクラスに入っている。みんなで共通意識を持って指導にあたらないと崩れてしまうことにつながっていく。

(K)：北小であるが、学力向上面で「取り残さない教育」というのは、全体的に教育をするのか、個人一人ひとりにあった教育を行っていくのか。

校長：両方ともに大切と考えている。それぞれの子どもたちに合わせた学習であったり、内容であったりそういったことを準備する、学校でしか学べないことをしっかりと学ばせたいと思っている。できる子だけで進めていくのではなく、全ての子が、授業が終わってから「疲れた。勉強したなあ。」と思える授業がどれだけできているのか、教員が子どもたちに感じさせられるのかを大切にしたい。

(K)：中学校の「多様性」について教えていただきたい。

中学校：例えば、制服の名称からは「男女」という言葉を一切外している。子どもたちには、集団生活を大切にする、将来生きていくための力の育成を常に意識して伝えていきたい。ただ集団生活にはルールがあり、それを守っていくことで進んでいけることもたくさんある。自由と責任を勘違いしないようにさせたい。

「服装は個性」ということもあるが、自分らしさを出すことと勝手にすることは違うことに気づかせたい。今後、「中学校らしさ」という観点で保護者に発信をしていきたい。

(G)：「中学校3年生をお手本にして、下の学年の子どもたちに伝えていく」と聞いた際に、私のイメージでは学年が上がるにつれ難しくなっていくのに、中学3年生の姿を手本にしていくということが素晴らしいと思う。

中学校に図書館司書の先生は在籍しているのか。

中学校：在籍している。

(G)：新校舎図書館に立派な図書館ができるので、充実させてほしい。

(G)：南小だが、「小さなうちからリーダーとして意識させる」と聞いて、どのように取り組んでいくのか教えてほしい。

南小：先日、5年生の児童と学校のきまりについて話をしていた際に、「リーダーになっていくには、代表委員に立候補したり、班長になって自ら正しい行動をしたりして、周りから信頼を得ることが大切だよ」と話をしたことがあった。そんな姿を、教師がしっかりと見て、最後まで見届ける必要があることも先生たちに伝えている。

(G)：いろいろな子どもたちが活躍する場面を作っていくことが大切だと感じた。

(G)：北小には、家から学校まで遠い児童がおり、低学年の児童は大変だと思うが、教員間で情報共有などは行っているのか。

北小：教員間で、児童の体調、登下校時に心配なことなどがあれば、家庭と連携し、把握はしている。ちょっとした変化なども、学校と家庭で共有できるように伝えている。また気候によって、自分で服装を選んだり、脱ぎ着できたりする力をつけることも大切だと思う。

(K)：1年生の子どもたちも遠いところから歩いて来ているのか。

北小：歩いて登校している。

(K)：これから暑くなるのに、大変だと思う。

北小：小学生のうちに長い距離を歩くことは大変だが、体力をつける、体調を整えるなど、そんな力がつくような子どもに育ててほしいと思う。

教育長：毎月の教育委員会で聞かせていただいているが、学校での取組は、子どもたちが、将来社会で生き抜いていく力になっていると感じており、日頃の学校の努力に本当に感謝をしたい。

さて、本日の総合教育会議に当たり、校長先生に二点お願いさせていただきたい。一点目は「教師は校長の鏡」、この言葉を念頭に置いて職務に当たっていただきたい、ということである。今年の転入職員や新採職員の受け入れ式の際、「子どもは教師の鑑」という言葉で子どもたちは先生方の影響を大いに受けるので、お手本になっていただきたいとのお願いをさせてい

ただいた。先生方は大人であり、アイデンティティも確立されていることから、校長先生の行動や意識が先生方の行動や意識にどこまで影響を与えるかは定かではないが、やはり管理者として学校の校風や職員室の雰囲気には大きな影響がある。「教師は校長の鏡」、このことを体現すべく、働き方改革や服務規律等々において教師のお手本になっていただきたい。

二点目は、全国学力学習状況調査に関しましてのお願いである。明後日に全国学力学習状況調査が実施される予定となっている。例年、この時期になると校長先生方を前に「釈迦に説法」とは思いつつ次のようにお願いをさせていただいているのでよろしく願いいたしたい。まず、全国学力学習状況調査いわゆる学調は、全国の市町村に過度な競争を煽るものであり、市町村の序列化につながりかねないといったネガティブな論調もある。確かにそういった側面があることは全く否定できないところではあるが、そうかと言ってやめることはできない。そうであるならば、次の二つの側面から肯定的に取り組んでいただきたい。

一つ目の側面は自己肯定感を高めるためのきっかけ作りをしていただきたいということである。問題が分かるようになれば、あるいは少しでも得点が上がれば、それが自信となり自己肯定感が高まることにつながっていくと思われる。

二つ目の側面は、考える癖をつけるきっかけ作りをしていただきたいということである。そもそも学校で勉強する理由は、考える練習をして考える力をつけるためであると考えている。その中で、学調の問題は、ご存知のように記述式問題や統計資料から読み取る問題などなど、知識はもちろん考える力が要求される。普段から「考えることが楽しい」という気持ちにさせ「なぜそうなるのか」「なぜそう考えるのか」というような考える癖をつけてもらうためのアイテムの一つとして捉えていただきたい。

「言うは易し行うは難し」ということは承知しているが、学調を二つの側面からポジティブに捉えていただき、自己肯定感や考える力すなわち非認知能力を高め、子どもたちに社会で生きていく力を付けてやっていただきたい。

もちろん、学校現場では既に上記の事を踏まえて取り組んでいただいていることと思うが、現時点において学調の実施日まであと数日となった。この直前期においては、子どもたちの学調に向かう気持ちを鼓舞したり、奮い立たせたりしていただくようお願いいたしたい。

古来「病は気から」と言われるが、この心理的な現象はプラセボ効果とも言われている。アメリカのある大学が以前、このプラセボ効果が脳にも影響を与えるのか否かの実験を行った。

実験方法は大学生に対し、テストを実施する前に「このテストは脳を鍛えるテストです。」と前置きした後でテストをさせたところ、IQが5～10ポイントアップしたそうである。学調が数日後に控えた中で、例えば子どもたちに「このテストは考える力がつくテストですよ」というような声掛けもいかがか。

子どもたちがいつも以上に力を発揮できるような声掛けをしていただき、子どもたちの気持ちや集中力が高まるような環境づくりをよろしくお願いいたしたい。